

林原が開発したナリンビッド

とて廃棄される山果樹園(山形県)の「無添加出来立てぶどうのジュース」を「環ラート3種」を選んだ。

子製造販売の「かか(岡山県鏡野町吉原)の「岡山清水白桃ケーキ」が受賞。広

「岡山清水白桃ケーキ」が受賞。広

の「贈答箱入寿刀舎たし」が選出された。(清水将一郎)

創業130周年「現役」の煙突

三石耐火煉瓦

JR山陽線三石駅に降り立つと、褐色の煙突が目飛び込んでくる。耐火物で栄えた山あいの街並みでひととき立ち、周囲の景観にもなじんでいる。

通称「八角煙突」。今年、創業130周年を迎える三石耐火煉瓦(備前市三石)のシンボルだ。高さ約35m、幅約4m。れんがを八角形に積み上げており、鉄筋などは入っていない。2009年には経済産業省の「近代化産業遺産」に認定された。

同社は日清戦争の2年前の1892(明治25)年、地元で豊富に採れるろう石を元に耐火れんがの生産を始めた。煙突はれんがを焼いて仕上げ、トンネル状の「連続炉」の付帯設備で、英国の技術者により建造された。創業時から



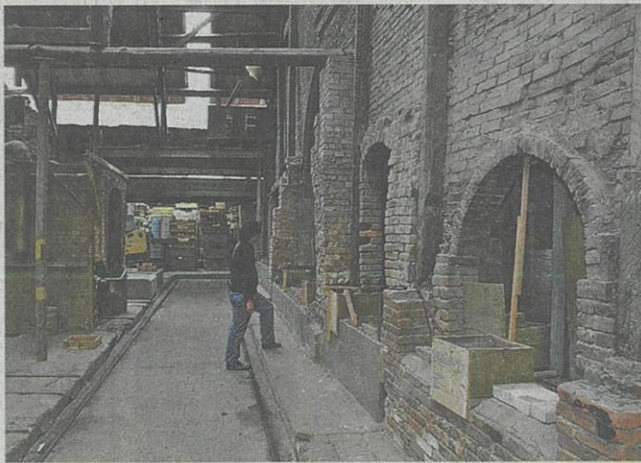
地域の象徴 黙々と仕事

稼働し、いまも「現役」。炉 周辺で、主演の広末涼子さんは24時間動き、内部は1300度にもなっている。大量の煙が発生するため、煙突を通じて外へ排出するわけだ。

その立ち姿は「絵になる」だけに、映像関係者が放つておかない。2009年の映画「ゼロの焦点」では、金沢市「ゼロの焦点」では、金沢市役者は大したものだと思っただけで、映像関係者が放つておかない。2009年の映画「ゼロの焦点」では、金沢市役者は大したものだと思っただけで、映像関係者が放つておかない。



三石耐火煉瓦の煙突。明治時代から会社を支え続ける



煙突の下にある工場。映画「ゼロの焦点」の撮影場所となった

い付くように広末さんに近づいていった光景も楽しい思い出。昭和60年代の落雷によって頭頂部(高さ約2m)が欠損したり、鉄製の囲いで耐震補強したりした以外は、ほぼ当初の姿を残す煙突。れんがの優れた耐久性を知らずも体現してきた。少取り壊すつもりはない」と万波有道社長(80)。地域の象徴でもある煙突は、今後も黙々と仕事を続ける。(小川正貴)

「持続可能」商品販売やイベント

天満屋岡山店 5月14日から初展開

天満屋岡山店(岡山市北区表町)は11月22日、「サステイナブル(持続可能)ウィークス」と銘打ち、環境保全などにつながる商品やイベントを初めて展開する。

フェアトレード(公正な貿易)の南アフリカ産ワイン(750ml入り1375円)、植物由来で肌に優しい食器洗剤(450ml入り493円)、廃棄予定だった野菜や果物からできたB5判ノート(550円)など約100種類を各階の売り場で販売する。

7階催場では14、15日、フェアトレード食品や自然素材の日用品などを扱うイベント「アースデイ岡山×天満屋」を、東日本大震災の移住者支援に取り組んできた一般社団法人・おいでんせえ岡山と共催する。問い合わせは天満屋岡山店(086-231-7111)。